

五藤監督 主な作品



「花蓮～かれん～」
(C)「花蓮」製作委員会



「レミングスの夏」
(C)「レミングスの夏」を応援する会



「おかあさんの被爆ピアノ」
(C) 2020映画「被爆ピアノ」製作委員会
第38回日本映画復興賞奨励賞受賞



「ほうきに願いを」
(C)2021「ほうきに願いを」製作委員会

■「美しすぎる議員」2019年
など多数

映画監督・脚本家
五藤 利弘

新潟県長岡市出身。東京都在住。
出身地である新潟の他、茨城や栃木
などの地方都市を舞台とした多くの
作品の企画・脚本を手がけ、フリー
ランスの監督としても活躍中。

撮影地：大山守大場家郷土屋敷(行方市)

第2回 **5月14日**
式湖の罔映画祭開催!!

クラウドファンディング
CAMPFIREにて近日公開!!

詳しくは、こちらのページからご覧ください。



禅即行動

まず踏み出すことが大切です。

地域活性化のために
座禅道場兼修道場を
貸します

静かな田園風景の中に建つ
寺院はロケ地にも最適です。

常光院
茨城県行方市小高1201
TEL 0299-77-0522 (受付:9:00-17:00)



詳しくは右QRにて▶



ることがありますが、ここに来ると開放された気分になります。

Q 最新作はお二人とも戦争をテーマとした作品ですが、今の時代に思うことを教えてください。

松村 ロシアとウクライナで起きていることは、昔のアメリカと日本の関係を彷彿とさせます。両国は当時の日本とアメリカの何倍もの

国力の差がありますが戦争とは非情なものの。降伏後、強制労働といったことも起こり得るので、簡単に降伏は出来ないと思います。
五藤 戦争というテーマは重く、自分がこういうものを作ってもいいのかと思ったこともありましたが、数年前、大きな事故で奇跡的に命が助かったことで怖いものがなくなりました。作品を作る立場として伝えなければならないことがあると思います。

今もコロナ感染した人を差別することがありますが、それは東日本大震災後の被災地の方々や、戦後、被爆者だけでなく二世もが差別されてきたという事実もあります。人間は同じ過ちを繰り返すのですが、それを留めることをしなければならぬと思います。今回の映画が、そんなきっかけになることを願っています。戦後復興から高度成長期、バブル期を経て、新しいものを作ることが幸せという幻想を頂いて発展してきましたがそれが本当に正しかったのか今は見直す時期のように思います。高層ビルなど自分たちの手に負えない

ものを次々に作ってそれが老朽化したときどうなるのか、そういったことを考えないで開発が進められてきたように思います。
しかし、茨城に来たら大切なものが壊されず残されていて、食べることも困らない…美味しいものがたくさんある場所。地に足の着いた幸せな生活がここにはあると感じました。こうした茨城とのご縁は松村監督に繋いで頂いたお陰です。
松村 五藤監督とは、若い頃一緒にテレビのドキュメンタリー番組を手掛けてきてからの友人ですが、私は「天心」、五藤監督は「花蓮」という映画から茨城との深い絆が生まれました。その後、私は「サクラ花」、若鷲に憧れて、そして今回の「祈り」という作品で、戦争をヒューマンドラマとして取り上げました。
一方、五藤監督は「おかあさんの被爆ピアノ」で、五藤監督ならではのやさしいタッチで戦争のない平和を願う作品を作っています。
私たちの作品が、戦争と平和について考えるきっかけになったら嬉しく思います。

リアンヴイルでのぞいてみる
対談
Dialogue

Vol.4

映画からの地域づくりと平和への願い

Q 松村監督は、茨城と深い繋がりがあるそうですね。
松村 母の実家が行方で、子どもの頃、夏休みになると遊びに来ていました。霞ヶ浦にはまだ湖水浴場があり、田んぼの中にある祠の風景にも心惹かれた思い出があり、今でもここを故郷と思い大切にしています。

Q 五藤監督は、新潟ご出身と伺っておりますが、茨城との縁は映画製作からですか。
五藤 30 年程前、ブラックバス釣りによく来ていました。故郷には信濃川がありますが、対岸の見えない霞ヶ浦のスケールは圧巻でした。その後、15 年程前に松村監督と霞ヶ浦を巡り、戦争遺跡を見て回ったのが記憶に残ります。

お母様のご実家にも一緒に泊まらせて頂き楽しい思い出になりました。

Q 監督の目から見て、茨城はどのような所だと思いますか。
松村 茨城は田舎の原風景が広がっているのに、日帰りのできる場所。こちらの大場家さんをは



じめ、明治から昭和のロケができる場所がたくさんあります。パソコンで仕事ができる時代、地方に移り住んでいる脚本家さんもいますし、母の実家のある行方も第2の人生としてはいいのですが、車がないと動くのが大変なのがネックです。監督業は人と直接会って、生で感じてみないと決められないこともたくさんありますから。

五藤 豊かな自然の風景がずっと残っている。それは大切な財産だと思います。東京では生活する人と人との距離感が近すぎ、息苦しく感じ



映画監督
松村 克弥

東京都出身・在住。
毎日映画社入社後、短編記録映画など
100本近くの構成や演出に携わる。
その後、フリーランスの映画監督として
活躍中。

松村監督 主な作品

【映画】



「天心」
(C)2013 映画「天心」製作委員会



「サクラ花 ～桜花最期の特攻～」
(C)2015 サクラプロジェクト



「ある町の高い煙突」
(C)2019Kムーブ



「祈り～幻に長崎を想う刻～」
(C)2021 Kムーブ／サクラプロジェクト
第16回ロサンゼルス日本映画祭
大林宣彦賞受賞

【プロモーション映像】

- 「若鷲に憧れて～元予科練生の回顧録～」2021年(阿見町)
※茨城県広報コンクール映像部門 特選
- 「名医死す～感染症と闘った藤野昌言物語～」2021年(広島県府中市)
- 「その先を往け! 日本地図の先駆者 長久保赤水」2021年(高萩市)

など多数

思い出のロケーションで
映画のようなワンシーンを

人生の晴れの記念日に
お宮参り・七五三・卒業式・成人式・ウェディング

光翔 茨城県銚田市串挽1109-8
TEL: 0291-33-6571 OPEN: 9:00～19:00 年中無休

詳しくはHPにて▶



co-op
コープ

いはらきコープ

食卓を笑顔に、地域を豊かに。